

平成 29 年度
「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立昭和中学校
平成 30 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査については、平均正答率は全ての教科において全国平均を上回り、平均無解答率は全ての教科において全国平均を下回るなど、一定の成果を達成することができた。一方、家庭における予習・復習などの学習習慣に課題を残した。
- 全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合が全国平均に大きく及ばない。キャリア教育を充実させ、将来の夢や目標を持つ生徒を育てる必要がある。
- 保健体育の授業において、腕立て・腹筋・スクワットなどの補強運動を取り入れ、生徒の基礎体力向上に努め、さらに授業の各場面で、その意義や目的について指導してきた。その結果、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において男子の結果が、大阪市・全国と比較したとき、優れている種目が増えた。今後、補強運動の継続はもちろんのこと、筋力、俊敏性、全身持久力を伸ばす運動を取り入れながらも、運動の重要性やその意義、そして楽しさを伝えていくことが必要不可欠である。とりわけ、男女ともに、「反復横跳び」が大阪市・全国平均に届かなかったことから、すばやく動作を繰り返す運動を強化し、俊敏性を伸ばすことが課題である。
- 学校教育 I C T 活用事業のモデル校（平成 25～27 年度）、先進的モデル校（平成 28 年度～）として、研究と実践に一定の成果をおさめることができた。また、平成 29 年 2 月に学校情報化認定委員会より「学校情報化優良校」の認定を受けた。今後は、先進的モデル校として公開研究授業や授業公開を行うことと並行して、「先進校」の認定を受けるべく、さらに研究・実践を積み重ねていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・平成 32 年度の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。
- ・平成 32 年度の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目について「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
- ・全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成 32 年度の校内調査において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目について、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を男女ともに大阪市平均以上にする。
- ・大阪市「学校教育 I C T 活用事業」先進的モデル校として、学校情報化認定委員会の「学校情報化先進校」の認定を受ける。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- ・平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 86% 以上にする。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の道徳の時間に、読み物資料を教材として、すべての教員が 2 回以上授業を行う。
- ・地域と合同の防災教育を年 1 回以上実施する。
- ・平成 29 年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 82% 以上にする。
- ・平成 29 年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を 87% 以上にする。
- ・平成 29 年度の校内調査において「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を 57% 以上にする。
- ・全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を昨年度の割合よりも 6 ポイント以上増加させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 5 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
- ・平成 29 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の校内調査において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目について、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を 82% 以上にする。
- ・給食の平均残食率を昨年度より減少させ、体力を保持増進するための食育・体力づくりを推進する。
- ・大阪市「学校教育 I C T 活用事業」先進的モデル校として、全教員が公開授業を実施し、I C T の活用を推進する。

3 本年度の自己評価結果の総括

今回、年度目標の達成に向けたすべての取組内容について、全教職員一人一人が4段階（十分、概ね、やや、不十分）の自己評価を行った結果、「十分」、「概ね」を合わせた肯定的評価の割合がすべての取組内容について、80%を超えた。そこで、「十分」の割合から否定的評価である「やや」「不十分」の割合を減じてもなお80%以上となる取組内容については自己評価をAとした。「全市共通目標」「学校園年度目標」とともに、いくつかは定めた数値に届かなかったものの、総じて目標は達成できており、2つの最重要目標である「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」および「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」は総合的に見て、概ね達成できたといえる。

今年度、年度目標を達成するために設定した「取組内容」とその状況を測る「指標」の結果がリンクするように改善を行ったが、年度目標の達成結果に直接結びつかなかった部分もあり、今後の設定方法に引き続き、課題を残した。

今後も引き続きこの結果を真摯に受け止め、次年度に向けて改善すべき点に対しては、具体的な策を講じていかねばならない。

(様式2)

大阪市立昭和中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を86%以上にする。 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の道徳の時間に、読み物資料を教材として、すべての教員が2回以上授業を行う。 地域と合同の防災教育を年1回以上実施する。 平成29年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を82%以上にする。 平成29年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を87%以上にする。 平成29年度の校内調査において「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を57%以上にする。 全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を昨年度の割合よりも6ポイント以上増加させる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>人間としての生き方を考えさせる道徳教育を、道徳教育推進教師を中心に、全教職員の共通理解のもとで推進する。</p> <p>指標 全教員が、1年間に2回以上は読み物資料を教材とした道徳の授業実践を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>音楽・吹奏楽に親しむ機会を創出し、生徒の情操を育む。</p> <p>指標 全校生徒を対象とした音楽鑑賞会を1回以上実施する。</p>	A

取組内容③【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「学校いじめ防止基本方針」に則り、すべての教職員が「いじめ」を見抜く鋭敏な感覚を養い、事案の未然防止および早期解決に努める。	B
指標 月に1回以上、いじめ防止に関する委員会を開催するとともに全教職員で情報共有する。	
取組内容④【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 災害発生時に支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。	B
指標 地域関係諸機関と連携した防災教育を、年に1回以上実施する。	
取組内容⑤【施策 2 道徳心・社会性の育成】 社会的・職業的自立に向け、子どもの勤労観・職業観を育てるため、職業講話や職業体験学習など、子どもの発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育を推進する。	B
指標 全ての学年において、年に1回以上、キャリア教育を実施する。	
取組内容⑥【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学校元気アップ地域本部事業と協力し、地域の力を学校に取り込みながら、生徒・保護者・教職員が、潤いのある校内環境を整えることを通して、情操豊かな生徒を育成する。	B
指標 生徒・保護者・教職員による校内緑化活動を、年に1回以上実施する。	
取組内容⑦【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 読書習慣を身につけさせ、本を読む楽しさを味わわせる。	A
指標 毎週2回以上、朝の読書活動を行うとともに、学校図書館と学級文庫の整備を進め、入館生徒数を昨年度以上にする。	
取組内容⑧【施策 2 道徳心・社会性の育成】 インクルーシブ教育の充実と推進を図るために、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、自立と社会参加に向けて、個に応じた指導を充実する。	B
指標 月に1回は、個に応じた指導について共通理解を図るとともに、年に1回以上指導方法に関わる校内研修会を開催する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
(取組内容①)	
道徳推進教師を中心に、全教員が年間2回の授業実践を行うよう各学年で計画的に道徳の授業実践を行っている。2月1日現在、学年により遅れはあるが、年度末までに目標は達成する見込みである。	
(取組内容②)	
11月に芸術鑑賞会として音楽鑑賞を実施した。さらには、吹奏楽部による演奏を文化発表会や70周年記念式典で鑑賞することで、音楽・吹奏楽に親しんだ。	
(取組内容③)	
いじめの早期発見・未然防止のために、週に1回、学年間の生徒に対する情報交換、情報共有を図っており、学期に1回はいじめに関するアンケートを実施するとともに、担任が中心となって個別に教育相談を行い、生徒の変化をきめ細かくとらえて対応した。	
(取組内容④)	
5月の土曜授業において、阿倍野区役所や阿倍野消防署、地域と連携した防災教育を実施し、防災・減災に対する生徒の意識向上を図った。	

(取組内容⑤)

年間計画においてキャリア教育は3学期を中心に実施する予定であるが、1学期には2年生が保育体験を実施、3年生は各学科の高校の先生を招き、今後の進路選択に向けての学習を行った。さらに11月末には外部講師による面接の受け方に関する学習を行い、身だしなみや挨拶の重要性、礼儀について学習した。3学期には1年生が進路選択についての学習、2年生が職業についての体験学習を実施し、将来の進路選択に向けて学習する。

(取組内容⑥)

ふれあい委員会や学校元気アップ、保護者が連携し、校内緑化活動（緑のカーテン、鉢植え、プランターなど）を実施することにより、潤いのある校内環境を整えることができている。

また、学校元気アップやPTAの協力のもと、ふれあい委員が鉢植えした花を文化発表会に来られたお年寄りにプレゼントした。2月下旬に夏の収穫に向けて、じゃがいもの種芋を植える作業を行った。

(取組内容⑦)

読書習慣を身に着けさせるため、朝の読書活動の定着を図るとともに学校図書館と学級文庫の整備を進めることで、2月1日現在で比較すると、学校図書館への入館生徒数は昨年度777人に対して今年度は1462人となり、大きく増加した。

(取組内容⑧)

- ・毎月、人権教育推進委員会を開催し、自立と社会参加に向けた個に応じた指導の充実に努めることにより、自立と社会性を育てるよう取り組んでいる。また、8月には「個に応じた指導」の充実を図るため、スクールカウンセラーを講師に招き、「発達障がい」について研修会を実施し、理解を深めるとともに、大阪市教育委員会インクルーシブ教育推進室の巡回相談を年間3回にわたって活用し、専門家から指導助言を受けることで個に応じた指導の充実を図った。

全市共通目標（小・中学校）の達成状況

- ・1学期末に実施した校内調査において、9件のいじめを認知し、様々な場面で取り組みをしてきた。その後の2学期末における校内調査においては、いじめの訴えは0件であった。しかしながら、水面下でのいじめを見逃すことのないよう、今後も多くの目で見守っていくことが必要である。
- ・平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は96%に達し、86%以上という目標を達成した。
- ・暴力行為を複数回行う加害生徒数は微少ながらも前年度と同数（1）であり、減少させる（すなわち0にする）という目標は達成できていない。
- ・今年度、新たに不登校になる生徒数は前年度の数と同数であった。全校生徒数が増加していることから、割合を比較すると、前年度の割合よりもわずかながらも減少している。

学校園の年度目標の達成状況

- ・平成29年度の道徳の時間に、読み物資料を教材として、すべての教員が2回以上授業を行う。という目標は、（取組内容1）で述べたように、年度末までに達成する見込みである。
- ・地域と合同の防災教育を年1回以上実施するという目標は（取組内容4）のように達成した。
- ・平成29年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は85%（1年生：89%、2年生：81%、3年生：84%）となり、82%以上にするという目標は達成した。

- ・平成 29 年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合は 85%（1 年生：84%、2 年生：80%、3 年生：93%）であり、87%以上にするという目標にはわずかに届かなかった。
- ・平成 29 年度の校内調査において「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合は 56%（1 年生：64%、2 年生：47%、3 年生：58%）となり、57%以上にするという目標にはわずかながら届かなかった。
- ・全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合は昨年度 54.8%から今年度 74.1%と飛躍し、6 ポイント以上増加させるという目標を大きく上回った。また、これまで全国平均を下回ることが続いたが、今回は全国平均をも上回った。

次年度への改善点

- ・不登校生徒については、今後も家庭との連携を密にするとともに、スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を図りながら、地道に取り組み、改善に向けて取り組み続ける。
- ・常に生徒に寄り添いながら、生徒の変化に気づき、困っていることに対応できるよう努めることにより「困っていることに対応してくれる」という信頼関係を今以上に深めていく。
- ・新学習指導要領の「道徳の教科化」を見据え、指導案の検討や外部研修への参加などを通して、さらなる指導力の向上をめざすとともに、完全実施に向けて年間指導計画を見直していく。

(様式2)

大阪市立昭和中学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。 	B
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の校内調査において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目について、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を82%以上にする。 給食の平均残食率を昨年度より減少させ、体力を保持増進するための食育・体力づくりを推進する。 大阪市「学校教育ＩＣＴ活用事業」先進的モデル校として、全教員が公開授業を実施し、ＩＣＴの活用を推進する。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取り組み】 放課後等に自主学習時間を設定し、地域コーディネーターやボランティアと協力して、生徒の自主学習を支援する。	B
指標 定期テスト前に自主学習会を、土曜学習会も含めそれぞれ4日以上開催する。また夏季休業期間中に自主学習会を3日以上開催する。	
取組内容②【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取り組み】 個に応じた指導を工夫することで、生徒の基礎学力を向上させる。	B
指標 中学生チャレンジテストにおいて、全学年全実施教科の校内平均正答率を大阪市平均正答率以上にする。	
取組内容③【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】 先進的モデル校として、活用方法を研究実践し、授業を積極的に公開する。	A
指標 全教員が、ＩＣＴを活用した公開授業を年1回以上実施する。	

取組内容④【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 生徒が I C T を活用し、表現する力を育成する。	A
指標 I C T を活用し、生徒が主体的に発表する場を、複数の教科において設ける。	
取組内容⑤【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 成長期にある生徒が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることで、体力の基礎となるよう食育を推進する。	B
指標 年度末における学校給食の平均残食率を昨年度よりも 3 ポイント以上減少させる。	
取組内容⑥【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 望ましい運動習慣を身につけ、基礎体力の向上を図るようにする。	B
指標 毎回の授業において、腕立て・腹筋・スクワットなどの補強運動を実施する。	
取組内容⑦【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】 「校園内研修支援・O J T 事業」に則り、すべての対象教員が研究授業を実施し、指導力の向上に取り組む。さらにメンターを中心とした若手教員の研修を実施する。	A
指標 若手教員の自主研修を、メンターを中心に学期に 1 回実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

(取組内容①)

定期テスト前には、学校元気アップの学習ボランティアを中心として、土曜日を含めて 4 日間の自主学習時間を設定するとともに、夏季休業期間中においては 2 学期開始前の 3 日間の学習会を実施し、生徒の自主学習習慣の定着を図っている。また、10 月より数学、社会、美術において、学習ボランティアによる授業のサポートを新たに開始した。

(取組内容②)

中学生チャレンジテストについて 1・2 年生はまだ結果が出ていないが、3 年生の結果については、5 科目すべてにおいて、校内平均正答率は大阪市や大阪府の平均正答率を上回っている。

(取組内容③)

I C T を活用した公開授業については年度当初の計画どおりに、年 3 回実施できており、全国各地より多くの参加者が訪れ、対外的にそのノウハウを発信できた。

(取組内容④)

様々な場面で I C T を活用し、生徒が主体的に発表する場を設けている。今年度の全国学力・学習状況調査における生徒質問紙においても、「自分の考えを発表する機会が与えられているか」という質問に対し、肯定的な回答が 93.1% と全国平均 84.4% を上回っている。また校内調査により「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」という質問に対し肯定的な回答が 1 年生 : 82% 2 年生 : 87% 3 年生 : 94% (平均 88%) と学年が進むにつれて、I C T 機器の活用にも慣れてくることで、その傾向が強くなっていると考えられる。

さらに 8 月には日本教育工学協会 (J A E T) の学校情報化認定委員会より学校情報化先進校 (情報教育部門) に認定され、早くも中期目標を達成した。

(取組内容⑤)

2 月 1 日における平均残食率を比較すると、昨年度が 6.5% だったのに対し、今年度は 3.6% となり、目標の「3 ポイント以上減少させる」を概ね達成している。

(取組内容⑥)

毎回の授業において、腕立て・腹筋・スクワットなどの補強運動を行い、基礎体力の向上を図っている。

(取組内容⑦)

メンターを中心とし、生徒指導主事の協力も得ながら、若手研修3回、生活指導研修2回の計5回の研修を実施した。今後も、年度末まで研修は随時実施し続ける予定である。

全市共通目標（小・中学校）の達成状況

- 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を前年度と比較（下表）すると

	3年生						2年生			
	国語	社会	数学	理科	英語	合計	国語	数学	英語	合計
今年度	111.5	104.4	117.7	110.7	109.6	110.7	110.0	130.0	120.7	119.6
前年度	107.4	117.0	113.5	112.8	110.7	112.0	112.1	138.3	120.2	122.3
変 化	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘

前年度より向上させるという目標は一部の教科を除いて達成することができなかつたが、昨年度に引き続き、すべての教科において、大阪市の平均を上回ることができた。

- 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率5割以下の生徒の割合と、正答率7割以上の生徒の割合を同一の母集団で前年度と比較（下表）すると、

3年	昨年度		今年度	達成
	70%以上	33.30%	19% ↘	×
	50%以下	31.60%	37.9% ↗	×
2年	昨年度		今年度	
	70%以上	64.90%	63.8% ↘	×
	50%以下	12.20%	10.1% ↘	○

現2年生のみ、50%以下の生徒の割合を2ポイント減少させることはできたが、他は目標を達成することはできなかつた。個々の教科に分けて考えると達成できている教科も少なくないのだが、昨年度の問題との難易度の違いにより、平均点についても昭和中学校のみならず、大阪市平均についてもかなり昨年度と差があるためその目標設定に問題があることも否めない。

- 平成29年度の校内調査（全国学力・学習状況調査における生徒質問紙より検証）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は69%（前年度：61.3%）となり、前年度より増加させるという目標は達成できた。

- 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より2ポイント向上させるという目標は、昨年度の男子48.52点、女子45.93点に対し、平成29年度は男子50.77点、女子46.56点となり、男子+2.25ポイント、女子+0.63ポイントと向上したが、前年度より2ポイント向上させるという目標は女子については達成できなかつた。しかしながら、男女ともに、昨年度よりも全国平均、大阪市平均との差を縮めることができた。

学校園の年度目標の達成状況

- 平成29年度の校内調査において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目について、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を82%以上にするという目標については（取組内容④）で述べたように、達成することができた。
- 給食の平均残食率は2月1日現在で、3.6%（昨年度：6.5%）となり、昨年度より減少させることができた。また、授業のみならず、様々な場面で食育を導入し、食に対する興味と、その

重要性を理解させる取り組みを行った。

・大阪市「学校教育 I C T 活用事業」先進的モデル校として、年間 3 回の公開授業を通して、全教員が授業を公開し、I C T の活用を全市のみならず、全国的に推進することができた。

次年度への改善点

- ・今後も、家庭と学校との連携のもと、家庭学習の重要性を共有し、生徒の学習習慣の定着と向上に努めていく。
- ・I C T の活用を通して生徒に、課題や目的に応じて情報手段を適切に活用する能力や、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力をさらに高めさせる。
- ・テストの得点分布における下位層をいかに減らしていくかが、学習における大きな課題である。そのためにも、個に応じた指導の継続とともに、補充学習の体制づくりを進める必要がある。
- ・「親子方式による学校給食」が始まって 2 年が経過した今、確実に残食率は減少しているものの、メニューによって生徒の好き嫌いが表れ、残食率が増加する。さらには牛乳に手をつけない生徒がいることも気になる。家庭と緊密に連携しながら、食べ物の好き嫌いに関わらず、残食が少しでも少なくなるよう、食育の推進と指導が必要である。